

**令和6年度
「ホッケー組織基盤強化支援事業」
成果報告会**

事業名：「ホッケー組織基盤強化支援事業」

団体名：公益社団法人日本ホッケー協会

事業実施の背景・課題、目標

日本ホッケー協会(JHA)は、中長期計画である「Japan Hockey Road to 2030」で理念・ビジョンを定義するとともに、9つの重点施策を明確化し、アクションプランとタスクを明確化している。

協会全体のガバナンスの再構築は進んだが、①登録競技者数の伸び悩み、②パートナーへの付加価値向上、③経営人材の不足、④ノウハウの不足などが明らかとなっており、**組織基盤の強化に対する取り組みが重要な経営課題**となっている。

本事業は安定的かつ効率的に事業推進を行うことができる組織基盤作りに加え、テクノロジーやシステムを活用したホッケーの魅力・価値の提供、ホッケー界を担う次世代人材育成などに取り組むものである。



本事業における具体的な取組内容

計画No.1 マネジメント人材の活用

- 本事業全体を統括するプロジェクトマネジメント人材の活用、デジタルマーケティング人材の活用、パートナーシップ開発人材の活用、Webセキュリティマネジメント人材の活用

これらの取り組みを実施する上でのPMを担当

計画No.2 経理・労務業務のIT化及びアウトソーシング化による業務効率化

- 会計システムのクラウド化と仕訳業務の外部委託による事務局工数削減と業務効率化
- 経理実績締め迅速化によるタイムリーな財務状況把握
- ワークフロー機能の活用、給与計算の外部専門家連携

計画No.4 会員登録データベースの構築とデジタルマーケティングの実践

- 会員登録データベースの再構築と安定的な運用体制の構築（特にR6年度は新規システムを構築）

計画No.3 デジタルを活用したホッケー競技の新たな価値創出

- 解説者やスポーツアナリストの養成
- 試合記録管理速報システムの構築
- 小型ドローン等のツールを活用した映像コンテンツ制作

計画No.5 次世代の人材育成

- 全国の自治体との関係強化と自治体間の連携および次世代人材の発掘を目的とした「公式ホッケータウン認定事業」の推進
- JHAカンファレンスの開催

計画No.1:マネジメント人材の活用

取組み内容	進捗・成果	課題
プロジェクトマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> 本年度は事務局主導でのマネジメントを行った 	<ul style="list-style-type: none"> 本来なら専任人材を配置したいところであったが、財務的な余裕がなかった
デジタルマーケティング人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> 各種システムの安定稼働が進んだ 	<ul style="list-style-type: none"> 協会としては今後も活躍して頂きたいと考えているが、財源的な制限あり
Webセキュリティマネジメント人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> 協会ホームページが抱えるセキュリティ上の課題を明らかにし、対策を行った 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も定期的にセキュリティアップデートを行っていく財源を確保していく必要がある
パートナーシップマーケティング人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> R7年度に期日を迎えるメインパートナーの代替先の目処がついた 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、各パートナーとの間でアクティベーションを実施するためのリソース不足が懸念される

計画No.2:経理・労務業務のIT化及びアウトソーシング化による業務効率化

取組み内容	進捗・成果	課題
会計システムのクラウド化と仕訳業務の外部委託	PCA公益会計クラウドを使用した外部委託先による仕訳入力作業全般は運用が安定化した	<ul style="list-style-type: none"> ワークフローを使用した稟議手続きの汎用化と協会活動全体への展開が課題。現状は事務局内部での業務もしくは、事務局員による入力で行われてるため、強化や普及事業においても各担当者が活用できるようにする為の仕組み作りが必要 補助金・委託事業の精算業務についても今一層の仕組み作りが必要 見積書・請求書発行業務、支払承認業務とオンラインバンキング、またその後の仕訳業務の連動が未済であり、仕組み作りと検証が今後の課題
勤怠管理および給与計算のシステム化と外部委託	職員の入力と承認手続き、毎月の取り纏めと外部による給与計算の一連の流れは安定化した	
支払調書作成業務のシステム化	R6年度が導入初年度。問題なく発進できた	
ワークフローの導入	交通費精算業務は役員および事務局員でスムーズな運用が出来る	
見積書・請求書発行業務のシステム化	スムーズな運用が行われている	
補助金・委託事業の精算業務の仕組化	一部の強化活動および大会にて活用が進んだ	<ul style="list-style-type: none"> 全ての強化活動および協会主催大会での展開が課題

計画No.3:デジタルを活用したホッケー競技の新たな価値創出

取り組み内容	進捗・成果	課題
ホッケー試合記録管理速報システムの構築 (4大会7種別：社会人女子プレミアムカップ、大学王座決定戦、全日本学生選手権大会および全日本社会人選手権大会)	<ul style="list-style-type: none"> 主催大会におけるスコア速報や公式試合記録が自動的に作成され、運営効率化とともに協会ホームページにも即時反映される仕組みを構築 予定していた4主催大会において導入することができ、運営業務の効率化と協会ホームページへの結果反映の効率化を達成することができた 	<ul style="list-style-type: none"> 競技規則の変更に合わせてシステム改修をしていく必要がある 全ての協会主催大会への展開を行なうための、仕様の改善やシステム操作マニュアルのアップデートが必要となる
スポーツアナリスト養成講座	<ul style="list-style-type: none"> オンラインにて計4回のスポーツアナリストワークショップを開催。日本リーグ参加チームから、U15世代のチームまで幅広い参加があった 	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム分析には高価なアプリケーションを利用する必要があり、現状は日本代表チームや一部の上位チームのみの活用にとどまっている
プロモーションビデオ制作	<ul style="list-style-type: none"> 映像のプロを養成する専門学校（テクノスカレッジ）との連携により、小型ドローンやハイスピードカメラを活用して、新たな視点を盛り込んだ魅力あるPR動画を制作することができた 	<ul style="list-style-type: none"> 専門学校との連携についてはお互いにメリットがあることが改めて判明した 更なる連携可能分野の拡大を目指して包括的な提携関係を構築していく

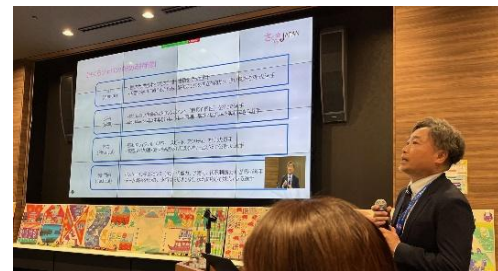
計画No.4:会員登録データベースの構築とデジタルマーケティングの実践

取り組み内容	進捗・成果	課題
新会員登録システム構築	<ul style="list-style-type: none"> 予定通り、新しい会員登録システムを導入 正しく登録と請求・支払いが紐づき、支払い間違い等がなくなった 登録チェック作業や資格確認のチェック効率化 	<ul style="list-style-type: none"> 登録規程の変更に合わせてシステム改修をしていく必要がある。 システム変更が対応できる十分な時間的な余裕をもって規定改定を進めていく必要がある。



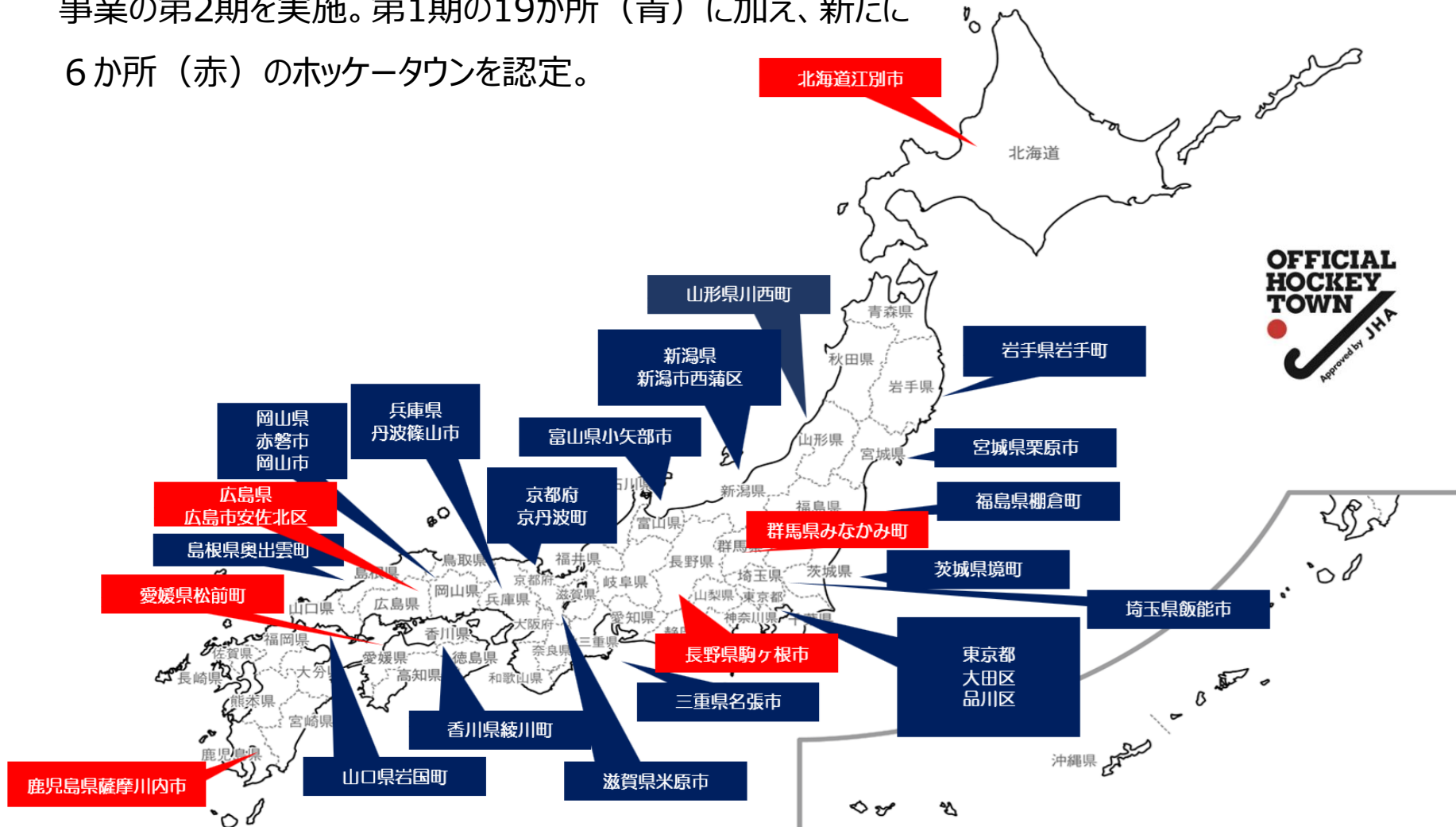
計画No.5:次世代の人材育成

取組み内容	進捗・成果	課題
<p>【自治体連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公式ホッケータウン認定事業の推進 <p>R6年度は新たに6つの市区町を認定 (鹿児島県薩摩川内市、愛媛県松前町、群馬県みなかみ町、長野県駒ヶ根市、広島市安佐北区、北海道江別市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホッケータウンプレサミットの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 認定式では全ての自治体で首長および都道府県協会の幹部が出席 自治体とNFの直接連携機会が創出されることとなり、地域課題がダイレクトに伝わるようになった(自治体↔都道府県協会) また、若くて意欲を持った人材とNFが意見を交わせる機会が創出できた 	<ul style="list-style-type: none"> 公式ホッケータウンの拡大(R7年度も追加募集及び認定を実施予定。既に複数の自治体より関心を寄せられている) 公式ホッケータウンサミットに向けた企画立案 ホッケータウン同士の横連携の拡大
<p>【都道府県協会連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都道府県ホッケー協会専務理事・事務局長連絡協議会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 協会の活動報告、情報交換の場づくりとして本連絡協議会を初めて開催。地域協会を主としたステークホルダーとの相互理解を進め、若い次世代人材を発掘しやすい風土を構築 本連絡会および地域協会の取り組みに関するアンケートの実施と結果の公表を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地域ごとに規模感の違いはあるが、限られた人員、予算の中で、地域の実態に即したホッケーの活性に取り組んでいることを再確認 「設備」、「少子化/人口減少」、「競技継続性の担保」、「財政/運転資金」、「人的リソース」の主に5つの課題があることが再確認された



計画No.5:次世代の人材育成

JHA設立100周年事業として開始した公式ホッケータウン認定事業の第2期を実施。第1期の19か所（青）に加え、新たに6か所（赤）のホッケータウンを認定。



計画No.5:次世代の人材育成



群馬県みなかみ町

鹿児島県薩摩川内市



愛媛県松前町



長野県駒ヶ根市



広島市安佐北区



北海道江別市

本事業の成果目標・KPIの達成状況

成果目標①：継続的に適切な人材を登用することで、確実かつ着実にプロジェクトの進行を行う

KPI①：外部マネジメント人材が継続的に毎月2名関与する

⇒**達成**：PMを事務局が行ない、常に2名ないし3名の外部専門家が関与してプロジェクトを推進した

成果目標②：月次での経理締め。計画と実績対比実現

KPI②：R5年度は3ヶ月遅れでほぼ月次損益レポートが出来る体制まで構築。R6年度は確実に3ヶ月毎のレポートが出来る体制を構築する

⇒**達成**：仕訳作業は翌月の20日前後には終了し、財務統括部がタイムリーに状況把握出来る体制が構築できた

成果目標③：ホッケーファミリーの拡大及びパートナー企業の獲得に向けた、次世代人材の発掘と活動機会の創出を行う

KPI③：公式ホッケータウン認定自治体数 30市区町村（R5年度実績19市区町村）

⇒**未達**：公式タウンは25市区町。ただし、複数の自治体から新規申請の意向を受けており、R7年度も継続して募集中

本事業を通じて感じた成果、課題等

(1) デジタルの活用	<ul style="list-style-type: none">新規登録システムの構築と運用の安定化には、結局4年間を要した少ない事務局体制で、1万人以上の個人情報や支払をマネジメントすることの難しさ各競技特有の特殊運用への対応があり、他の団体とのシステム共通化の難しさ
(2) スポンサーマーケティング	<ul style="list-style-type: none">財源の確保は本当に厳しい課題アマチュアかつマイナースポーツ団体が新規のスポンサーを集める為に、どう「競技の価値」の向上させるかが大きな課題また、その価値の言語化やビジュアル化へのハードルの存在（リソース）
(3) 競技人口拡大	<ul style="list-style-type: none">何とか横ばいを保っているものの、特に地方の少子高齢化の影響は深刻。地域協会はNFからの直接の支援を切望
(4) 地域課題解決への取り組み	<ul style="list-style-type: none">地域自治体とのNFの連携は大変有意義な取り組みと再認識R7年度に自治体による代表チームの合宿招聘（補助）が複数回実現し、地域交流活動が活発化
(5) バックオフィス機能の拡充必要性	<ul style="list-style-type: none">やりたいこと／やるべきことの増加 vs. バックオフィス人員へのコスト増

中期運営方針案「PDCA 2028」のアップデートを計画中

基本戦略：ホッケー独自の強み・資産を開発し発展するブルーオーシャン戦略

基本方針：社会共創による、ホッケーファミリーの拡大

代表チームの長期継続的な競争力確保の為に、すそ野の拡大（普及）、支える人財のレベルアップ（育成）、組織基盤の安定が必須であると捉え、それらを支えるホッケー界100年の独自資産である「ホッケータウン」との連携・深化を推進することに重点をおく

- ①普及：ファンや将来世代のすそ野の拡大（量）
- ②育成：ホッケー界全体の人財レベルの底上げ（質）
- ③強化：ビッグトーナメントでの成功
- ④基盤：財政・人財基盤の強化。ステークホルダーとの関係深化

